

令和4年度学校自己評価システムシート

目指す学校像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
--------	---

重点目標	<p>1. どのような力を生徒に育成するのかを明確にし、教育活動を見直し改善していく。</p> <p>2. 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。</p> <p>3. 安心して安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。</p> <p>4. 保護者(後援会)・同窓会・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学校評価委員会

※学校関係者・第三者評価実施日とは、最終回の学校関係者・第三者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	第三者委員	5名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者・第三者評価	
令和4年度目標							令和4年度評価(令和5年2月28日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和5年3月18日
								学校関係者・第三者からの意見・要望・評価等
1	今年度から実施する新教育課程を軸に、「才能教育」が始まる。学年については、コース毎に将来設計を立てさせ計画的に各人の才能を開かせる指導を目指す。新たに実施された「総合的な探究の時間」をグローバル教育に繋げていく第1歩として、「我が町川越」から、広い視野につなげていくことが課題である。	①各コースが実施する取り組みについての詳細な検討 ②グローバル人材の育成(インターナショナルプログラム・海外研修旅行の検討) ③「総合的な探究の時間」の取り組み	①それぞれのコースの特性を踏まえての進路講演会や課題研究学習を通じて、生徒各人の進路目標に沿った将来設計を描かせる。 ②平成5年度に実施予定の海外研修旅行実施に向けた準備。インターナショナルプログラム(英語・進学力講座、イングリッシュルーム、オンライン留学等)の具体的な運営と評価。 ③総合的な探究の時間の取り組みで、自ら調べ・問題解決の方法を探り・ディスカッションすることでより深い理解から、プレゼンテーションを行う。	①生徒各人が自分の将来を具体的に考え計画立てることができたか。 ②海外研修旅行について生徒・保護者の理解が得られたか。インターナショナルプログラムへの積極的参加が見られたか。 ③各クラスや班で調べた事柄を、プレゼンテーションできたか。	①特進コースの生徒にYGゼミを設置し、コースの特性に応じて難関大学研究室訪問、民間企業研修を通じて進路意識の醸成に努めた。 ②海外研修旅行については、アンケート調査を2回及び保護者会を実施し、生徒及び保護者の理解に努めた。 ③1学期は川越の街についてのプレゼン、2・3学期は個人のテーマでリサーチとプレゼンを実施した。	A	○研究室訪問や課題解決学習等の活動を通じて、最終的には大学進学の実現を目指す。さらに複数の大学との連携事業(高大連携)を推進していく。 ○次年度の研修旅行は、希望性により国外と国内の2本立てとした。総合探究と連携させ、準備を進めていく。	○才能教育は、是非生徒の「気づき」を大切にして、進めてほしい。 ○研究室訪問や民間活力を駆使した課外授業を継続してほしい。さらに次年度から実施する大学との連携事業を促進し強化して欲しい。 ○総合的な探究の時間は、テーマを海外研修旅行の目的とリンクさせ、その結果を生徒が論文にまとめて進路にも生かすことを目的としている。次年度も重点目標として強く打ち出し、その成果を期待している。
2	学習意欲をより高めるために視覚からのインプットを推進する。各教室に設置したプロジェクターやWi-Fi環境を活用し全ての教員が「学びを止める」ことがないよう、ICT教育のスキルの向上を目指す。国公立大学はもとより、難関大学やGMARCH等合格者の増加を目指すと共に、生徒各人の進路実現を叶える指導をする。また、昨年に引き続き、新しい教育環境を十分に活用した授業の改善への取り組みが課題である。	①学習指導の充実(ICTの活用) ②学習習慣の確立と学習時間の増加 ③主体的・自主的な進路選択力の育成 ④教員の資質向上への取り組み	①全ての教員がオンライン授業やハイブリッド授業を問題なく行えるように研修や説明を行う。 ②担任がクラッシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる。 ③本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する。特進コース対象のリモートによる課題研究を推進する。また1学年では、コースの特性による進路指導を詳細に行う。 ④授業評価アンケートの実施や研究授業を通して授業改善に取り組み、授業力の向上を図る。	①新型コロナウイルス感染防止のため臨時休校時になった場合、双方向型授業やZoomを使用したSHRが実施できたか。 ②生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して家庭の学習時間が増えたか。 ③生徒各人の希望に添った進路実現がされたか(3年)。また、進路実現のために努力することができているか(1,2年)。 ④授業評価アンケート調査(対面授業とオンライン授業の併用)の結果を前年度と比較する。	①全教員が何時でも直ぐに必要なに応じて、オンライン授業ができる技術を習得し、生徒の学力の維持向上に努めた。 ②オンライン授業で、生徒は生活のリズムを維持できたが、家庭学習時間は例年を下回った。 ③国公立大学では、お茶の水女子大1名等8名、早慶上理6名、GMARCH22名、成成明國武+日東駒専74名の合格者数であった。 ④生徒の調査結果では、学校全体の平均点が84.1点となり、例年とほぼ同様の結果を得ることができた。	B	○新コース2年目となり、地域からの期待度も高い。次年度はコース会議の中に、「学力向上推進会議」を設置した。コース毎の進路目標を踏まえ学力の向上に努めていく。 ○卒業生が昨年より150名減で、進路実績に関しては、例年の合格者数を下回った。進路指導部を中心に、対策を講じていくことが課題である。	○生徒各人の将来計画は、多方面の体験を通して得られるもので、本校の特色ある教育として地域から期待されている。 ○コース会議を中心に、コース毎に真の学力とは何かを検討してほしい。 ○本校の進路指導は、コース毎に特色があり、公立校に比べると進路指導が手厚い。進路実績は見方・書き方次第で変わってくるので、胸を張ってほしい。 ○自習室の整備など、自学自習の環境をさらに整えてほしい。
3	新型コロナウイルス感染予防に努め、予定している学校行事を行うことで、生徒の精神的不安を取り除き、生徒が自主的に学校行事に取り組めるようにする。また、生徒の健康管理を行うと共に、主体的に判断し、他者と協力・協働できる意識を醸成していくことを目指す。	①基本的な生活習慣の確立 ②コロナ感染防止対策の実施 ③部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ④成人教育の実施	①各委員会を通し、教育環境の整備を実施する。 ②アルコール消毒等を用いた手指の消毒及びマスク着用を徹底する。さらにアクリル板等を利用して飛沫防止対策に努める。 ③主体性を育む観点から、部活動・生徒会活動・学校行事をさらに活性化させる。生徒が主体的に実施できるように支援していく。 ④成人教育指導者による当該生徒を対象とした講演会を実施すると共に、生徒の意識を喚起する。	①各委員の働き掛けで、クラスの教育環境に変化が現れたか。 ②コロナ感染防止対策を徹底し、校内感染拡大の発生を抑えることができたか。 ③生徒会主催の学校行事で、主体的な活動が見られたか。部活動の実績が昨年度同様かそれを上回ったか。 ④成人教育指導者による講演会等で、生徒の意識が変わったか。	①校則については、風紀委員会が全校生徒にアンケートを実施した。 ②手指の洗浄・消毒の励行とマスクの着用を徹底した。CO2モニターを活用し、飛沫感染の防止に努めた ③執行部が意見を持ち寄り、協力して行事の運営に貢献し、コロナ禍以前の形式に近い形で実施できた。 ④消費生活センターから講師を招聘し、ワークシートを活用した講演会を実施した。	A	○校則については、次年度も継続して見直しをしていく。 ○感染症法が移行しても、引き続き予防に努める。さらに、コロナ禍でメンタルの不調な生徒のケアに努めていくことが必要である。 ○成人教育はこの講演をきっかけにして、生徒の意識を高めていく。	○ブラック校則が社会問題となる中、教員の指導の下、本校では風紀委員会を中心に生徒諸規定の見直しが行われている。ぜひ生徒の考え方も反映してほしい。 ○コロナ禍後の国の対応が大きく緩和される。学校行事を中心に活動の見直しをお願いしたい。 ○成人教育は、選挙権が付与されるにも関わらず、政治に関する意識の醸造が難しい。成人教育に関する工夫は必要である。
4	学校行事や部活動の様子をタイムリーに発信し、開かれた学校を目指す。また、地域や保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を積極的に推進している。昨年同様に中学校・塾や地域との連携を強め、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。	①信頼にこたえる開かれた学校づくり ②情報発信と生徒募集の強化	①学校評価委員会や第三者委員会の意見を参考にし、さらに充実した開かれた学校づくりを行っていく。 ②HPを通して学校の最新情報を発信し続ける。また、教職員が丸となり、新体制の特色を強く打ち出している塾訪問・中学校訪問・個別相談会を実施して行く。	①学校説明会や個別相談会の参加人数が昨年度よりも増えたか。 ②学校説明会や個別相談会の予約が取りやすくなったか。学校案内の刷新、チラシの作成、目標とする相談件数の提示で、募集定員を確保できたか。	①学校説明会・個別相談会は昨年度と同様の規模・回数で実施した。さらに初めて1,2年生対象の説明会を実施した。 ②コロナ禍での実施を踏まえて、予約枠を昨年以上に拡大して設定し、予約がより取りやすいようにした。創立100周年に合わせて、学校案内に特集ページを加えた。	A	○コロナ禍以前の状況になることが予想できる。特に学校説明会では生徒を全面に出し、学校の魅力をより強く出せるような説明会を実施していくことが課題である。 ○HPでは新コース紹介ページを改善し、魅力あるものにしていく。	○生徒の学校満足度調査が、例年より低かった。コロナ禍で学校行事が十分に行われなかったことが原因であると感じる。5類になり、本校の特色ある学校行事をどんどん進めて欲しい。 ○令和4年度・5年度の入学生徒数は500名を超えている。この結果から、生徒募集は成功していると考えられる。